2019年8月31日

老子会会報

老子会　主催
第020号(最終号)

老子会のモットー

「老子の道の精神を生かし、自分を変え、世界を変え、未来を変え、世界平和を構築し、人類の幸福を推進していく」ことをモットーとする。

六年間を迎える老子会

第一回の老子会勉強会は二〇一三年九月二十一日から始まり、間もなく六周年を迎えることになります。月一回の定例の勉強会のほかに、年一回日本の老子所縁のある町や人物を尋ねる実地研修も実施しました。名張市、京都の竜安寺、奈良の明日香村、新潟の「上善は水の如し」酒造、坂本龍馬の故郷、鹿児島県の西郷隆盛生誕地などに行ってきました。定期学習は六十五回、実地研修は五回、総会は2回、総計72回の活動を行いました。延べ参加人数は千三百を超えました。老子会の認知度が高められ、各界から注目されるようにもなりました。二〇一八年四月から月刊『第三文明』に「老子漫画」を連載し始め、すでに二〇回を数えました。昨年十二月中国中央テレビ(CCTV)では「老子漫画」を紹介して頂きました。

継続は力と言われているようにこれからも引き続き老子、さらに荘子を勉強していき、老荘思想のマスターをして、学習者の人生を豊かにして参りたく存じます。

よって、九月で満六年を迎えた「老子会」では、『老子道徳経』(上下81章)を読了したことをきっかけに、一般社団法人「**日中文化振興事業団**」という名称で法人登録をすることになりました。六年間大変お世話になりました。お礼を申し上げると同時に、引き続きのご参加、ご協力、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

新たに設立した一般社団法人「**日中文化振興事業団**」は、継続して、老荘思想の学習のほかに、古代から現代まで幅広く日本文化と中国文化を紹介してまいります。定期学習講座、講演会、交流会、イベント、コンサートなど幅広く日中友好交流事業を行う予定です。

『老子道徳経』に由来する四字熟語(あいうえお順に並べました)

有無相生(うむそうせい)　禍福倚伏(かふくいふく)　軽諾寡信(けいだくかしん)
小国寡民(しょうこくかみん)　絶巧棄利(ぜっこうきり)　大器晩成(たいきばんせい)
多蔵厚亡(たぞうこうぼう)　知足不辱(ちそくふじょく)　長生久視(ちょうせいふし)
天長地久(てんちょうちきゅう)　天網恢恢(てんもうかいかい)　被褐懐玉(ひかつかいぎょく)
微妙玄通(びみょうげんつう)　無為自然(むいしぜん)　無用之用(むようのよう)
和光同塵(わこうどうじん)

第65回老子会から

原文

信言不美、美言不信。善者不辯、辯者不善。知者不博、博者不知。聖人不積。既以爲人己愈有、既以與人己愈多。天之道利而不害、聖人之道爲而不爭。

書き下ろし

信言(しんげん)は美ならず、美言(びげん)は信ならず。善なる者は弁(べん)ぜず、弁ずる者は善ならず。知る者は博(ひろ)からず、博き者は知らず。聖人は積まず。既(ことごと)く以(も)って人の為にして己(おのれ)愈々(いよいよ)有し、既く以って人に与えて己愈々多し。天の道は利して而(しか)して害せず、聖人の道は為(な)して而して争わず。

現代語訳

信頼に足る言葉には飾り気がなく、耳障りの良い言葉は信頼するに足りない。善人とは多くを語らないもので、おしゃべりな人は善人とは言えない。本当に知恵がある人は物知りでは無いし、物知りな人に大した知恵は無い。そうして「道」を知った聖人は蓄えをせず、人々のために行動して大切なものを手に入れ、人々に何もかも与えてかえって心は豊かになる。天は万物を潤しながらも害を与える事はなく、聖人は他人と争わずに物事を成し遂げる。

解釈

第81章の解釈

「実のある言葉は飾り気がなく、飾り立てられた言葉には実がない」と、言葉を飾り立てて実際に実感しなさい。
「立派な人物は口上手ではなく、口がうまい人は立派な人ではない」と、口上手になってみて実際に実感しなさい。
「本当の知恵者は物知りではなく、物知りは知恵というものを知らない」と、知識を詰め込んで実際に実感しなさい。
聖人は、あらゆるモノを手許に積み上げたりしない。何もかも他人の為にしながら、それによって自ずと自分がますます持つこととなり、何もかも他人に与えながら、それによって自ずと自分がますます豊かとなる」と、実践してみて試してみなさい。
上記を実践して、「天の道とは、全てのモノに恩恵を与えて、害を加えることがない。聖人の道とは、いろいろなことをするにしても、他人と争うことがないのである」という状態があなたの周りでわき起こっていたならば、あなたは自ずと道に添って人生を歩んできたのである。
真実をあらわしている言葉は美しくなくて、美しい言葉は、真実をあらわしていないよ。
本当に立派な人は議論をしなくて、議論する人は立派ではないんだよね。
本当の知者は博識でなくて、博識な人は本当には知っていないんだよね。
聖人は蓄めることをしないよ。
他人の為に尽くして、自分自身を高めているよ。
他人の為に分けて与えて、さらに多くのモノも得てるよ。
天の「道」は善いことは有るけど、害は無いんだ。
聖人の「道」は何をやっても、争いが起こらないんだよね。

老子道徳経　第81章

本当の言葉は華美ではなく、華美な言葉は本当ではない。
本当の弁論家は弁舌が巧みではなく、弁舌が巧みな者は本当の弁論家ではない。
本当の知者は博識ではなく、博識な者は本当の知者ではない。

「善なる者は弁ぜず」道を体得した本当の「善者」は、弁舌を超越しているという意味。世の中の常識をひっくり返した警句である。

この章では、老子流の逆説論法を駆使した章である。表面的な見かけと裏面との違いを指摘して、現象の奥に対する注視をうながしている。すでに学んだ次の言葉も同様である。

第45章の「大巧は拙（せつ）なるが若く、大弁は訥（とつ）なるが若し」。

第56章の「知る者は言わず、言う者は知らず」。

聖人は物をため込んだりはしない。

何もかもすべて他人のためにしながら、かえって自分がますます持つことになり、何もかもすべて他人に与えながら、かえって自分はますます豊かになる。

天の道は、すべてのものに利益を与えて害を加えることはない。

聖人の道は、いろいろなことをするとしても他人と争うことはない。

「聖人は積まず」は、すべてを人のために放出するから、かえって豊かになる。

「既く」はことごとく、すべての意。

「天の道は利して害せず」この言葉は第79章の「天道は親無し、常に善人に与（くみ）す」と同じである。自然の公平無私の平等性は、弱者にとっての強い励ましである。

「為して争わず」は、無為自然のやり方ですべてを成し遂げているから、もちろん人と争うことはない。言葉が真理をあらわしていると、その言葉は美しくなく、言葉が美しいと、その言葉は真理をあらわしていない。

最後の章で、いま一度、老子の思想をまとめてみると、老子思想のキーワードは**「無為自然、無知無欲、自由自在、謙譲、柔軟、純心、素朴」**であった。

「信言は美ならず、美言は信ならず」―― 真実を語る言葉は、聞く人にとって必ずしも心地よいものでない。まさに「**良薬は口に苦し** 」とは、自分のためになるような忠言は、素直に聞きづらいものだという例えである。

老子は「信言は美ならず」という。心に響く信言というものは必ずしも美しくはないという。美しく整えようとすることで失うものがある。老子にはまた「大弁若訥」（大弁は訥なるがごとし）があって、まことの弁舌は訥々としているものである、という。努力してもさわやかな弁説とはいかない人には実感のあることばであろう。訥々とした語り口のなかに「大弁」を聞く老子の人間理解には、限りない優しさと率直さを覚える。

周末のころ、老子は、人生の終わりに近く、衰亡の淵にあった周室を離れて西方へと隠遁の旅に発つ。函谷関で関令の尹喜に熱く懇望されて書き残した五千余語が信言集『老子』である。その最後に「為而不争」（なして争わず）と書き、「信言は美ならず、美言は信ならず」と謙遜のことばを残して山中へと消えていった。**「信言不美、美言不信」**は、老子らしい逆説的表現でもある。真実味のある言葉には飾り気がない、飾り気のある言葉は真実味が無い、といった意味である。

思うに、この事、言うは易しいが見極めが難しい。よいと思って誉め言葉を述べる。時によっては、或いは人によっては素直にとってもらえないこともある。“信言は不美”とばかりに悪戯にけなして善人ぶる者もいる。出すのも受けるのも難しい。

「**巧言令色鮮矣仁**(こうげんれいしょく、鮮（すくな）し仁（じん）」（論語、学而篇・陽貨篇）“巧言令色仁難成”もいう。

この格言に類するようである。もっと卑近なものが“ほめ殺し”か。歯の浮くようなお世辞とか見え透いたお世辞は誰にもすぐわかる。巧妙な世辞となると、その気になって殺される。“甘い言葉”になるともっと怖い。“甘い言葉”に乗って身ぐるみ剥がされることもある。歳をとればとるほどに“甘い言葉”が欲しくなる。年寄りから身ぐるみ剥がそうとする輩がうようよしている。

“巧言令色仁難成”とは、「口先が巧みで、角のない表情をする者に、誠実な人間はほとんどいない」、という意味である。

“巧言令色仁難成”で、美言には最大の注意を払う必要があるのだろうね。脅しや美言での“オレオレ詐欺”……、それに官公庁や司法や警察を騙る悪質な輩には一段の注意が必要であろうね。

老子会の『人』松永　一男さん

大阪生まれの大阪育ち。松永一男さんは、西淀川区の実家で産婆さんの手によって生まれました。現在も50メートルほどのところにお住まいです。

学生時代の4年間は東京で暮らしました。日本大学で水産を学び、青森の八戸から山口の下関まで、水産関係の施設や漁師町を巡ったそうです。漁師網元の友達もおり、銚子港で鮪の水揚げを手伝ったことも。30キロ級が2000尾と言う漁獲量で、鮪で銚子港が覆いつくされていた光景が学生時代最大の思い出となりました。

卒論のテーマに選んだのは「鳴門海峡大橋完成の前後で漁獲量がどう変化するか」。漁獲調査過程をまとめました。兵庫県からの調査依頼でもあったため交通費や宿泊代も出たらしく、うまく利用して実家へも帰省されたようです。

昔から時代劇が好きで、現在は「刀剣の会」にも参加。本物の刀に触れ、自分の手で持ってみたいと思い参加されています。10月ごろには遂に日本刀を購入する予定とのこと。一度拝見してみたいものです。

探究心旺盛な学究家族で、奥様は今年4月から大阪教育大学の特任教授に、娘さんも鳥取大学の農学部で博士課程に在学中です。「相変わらずなのは私だけ。」とおっしゃいますが、ご自身も多才で「ガラス工芸作家」を生涯の仕事と決め、日々精進されています。

旅行が好きな松永さん。家族や友人とよく日帰り旅行にも出かけていらっしゃいます。お勧めのコースがあれば、ぜひご紹介を頂きたいところです。

胡先生との出会いは、日本大学のOB会で講演を依頼したこと。準備のための打ち合わせで、色々な話をしている時に老子会のことも知り、参加するようになりました。もちろん、OB会の講演も大成功だったそうです。

（余保充徳）

＜老子会の皆さんへ＞

老子会のみなさまには、何かとお世話になりありがとうございます。還暦を過ぎると新しい人との出会いが少なくなりますが、老子会では様々な分野で活躍されている方と、出会いを結ぶことができ感謝しています。これからも、有意義な学びを続けていきたいと思いますので、宜しくお願いいたします。

（松永一男）

事務局からのご案内

老子会は２０１３年９月２１日にスタートを切ってから、本年で６周年を迎えます。皆様には長い間ご協力を頂き心より感謝申し上げます。本日は「第２回総会」を開催し、現在の老子会は閉会となりますが、同時に、新しく一般社団法人**「日中文化振興事業団」**をはじめさせていただます。今後は、日中文化事業、講演会、コンサートやイベントなど、今まで以上に充実させていきたいと考えています。

皆様の一層のご理解とご協力を賜り、ご参加をお願いいたします。処暑を過ぎましたが、まだまだ残暑厳しき折柄、くれぐれもご自愛くださいませ。

石井　政　事務局長

老　子　会

〒658-8502
神戸市東灘区岡本8-9-1
甲南大学　国際言語文化センター　胡金定研究室

電話: 078(435)2353(胡金定研究室)
携帯番号:090-9169-2820(事務局長)
FAX: 078(435)2545
E-mail　kokintei@konan-u.ac.jp